

事例番号:370041

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第七部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 35 週 6 日

13:30 胃痛、血液検査所見より HELLP 症候群と診断し帝王切開目的にて入院

4) 分娩経過

妊娠 35 週 6 日

15:07 帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:35 週 6 日

(2) 出生時体重:2200g 台

(3) 臍帯血ガス分析:pH 7.38、BE -7.5mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 9 日 退院

生後 6 ヶ月 頸定なし、低緊張、引き起こし反応なく、発達の遅れあり

(7) 頭部画像所見:

生後 8 ヶ月 頭部 MRI で大脳基底核・視床の明らかな信号異常を認めない

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 2 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ:助産師 2 名、看護師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 35 週 6 日に、妊産婦の症状(胃痛)および血液検査所見(AST 126、ALT 92、LD 354IU/L、血小板 93000/ μ L)より HELLP 症候群と診断し、帝王切開を決定したことは一般的である。

(2) 帝王切開決定から 1 時間 25 分後に児を娩出したことは一般的である。

(3) 臍帯血ガス分析を実施したことは一般的である。

(4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

出生後の新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

- (2) 国・地方自治体に対して
なし。